中間支援活動助成(創設)事業 実績報告

団体名	(特非)島くらし淡路	代表者名	(職名) 理事長	(氏名) 安達淳也
事業名	淡路市中間支援ネットワークの事務局機能 構築事業			

< 事業実施実績 >

	相談業務 延べ回数/団体数	ネットワークの構築 ・ 情報提供 件数	人材育成 (講座開設等) 延べ参加人数/回数	書類作成指導 件数	その他 (調査研究等) 件数
R6 計画	窓口:週5日 相談会:6回/10件	2回/20名	2回/20名	0	0
R6 実績	窓口:週5日 相談会:6回/18件	2回/23名	1回/9名	0	0

< 効果と成果 >

さんぴいすの支援により、当該団体が移住相談窓口としての役割に加え、中間支援的な立場での活動を進める準備を進めるための期間とし、移住者や新住民に特定せず市民が地域で活動する際のサポート体制を強化するため、既存の団体との関係性づくりや、今後の連携の方向性を探る機会となった。

今年度は、移住支援に関する「住む」「働く」「暮らす」「子育て」などの相談業務を継続しながらも、地域活性やまちづくりに関わる活動が多くを占め、他分野への支援の広がりが課題となった。

そのため、まずは他の団体の活動を学び、どのような組織になりたいのかを検討する期間となった。

ご意見をいただいていたにも関わらず、地域活性化の視点になってしまい、視点を変えて支援する位置に立つことができていなかったと感じている。

< 連携と協働の成果 >

今年度は、地域とのネットワークが深まり、相談や助言ができる関係が築けた一方、市全体への周知や活動の広がりには課題が残った。

さんぴいすとは連携は取れていたが、他団体とは情報共有に留まり、共催の機会を持てなかった。

相談は身近な内容が中心で、専門的な相談には至らず、支援の方向性を模索する一年だった。

当団体が窓口として企画・運営を主導する意識が必要と感じていたが、ネットワークの力を利用し「淡路市中間支援ネットワーク」として、広域的な連携強化と活動の拡充を進めていく重要性に気づけた。

また、新たなネットワーカーとなる団体や個人の発掘にも力を入れ、移住者のスキルや仕事にも注目し、ネットワークへの参画を促すことで、中間支援の充実と移住後の支援につなげていければと考えている。

今年度については、「淡路市中間支援ネットワーク」の窓口としてスタートすることの、理解や情報共有ができたことが成果となる。

<今後の展望>

今年度は、地域とのネットワークが深まり、相談や助言ができる関係が築けたものの、市全体への周知や活動の広がりには課題が残った。特に、団体との連携が情報共有にとどまり、共催の機会を持てなかったことが今後の課題だと感じている。来年度は、「淡路市中間支援ネットワーク」としての広域的な連携を強化し、新たな団体や個人とのつながりを広げることで、相談窓口の役割をより明確にし、専門的な相談にも対応できる体制を整えていきたい。

また、今年度は「学びあい」講座の開設を目指しましたが、まずはネットワークの共通理解を深めることが優先され、一般の方を対象とした講座の実施には至らなかった。そのため、来年度は参加者の得意分野や学びたいことを明確にし、誰もが学べる講座の実施を目指したいと考えている。

来年度はネットワークの広がりや中間支援の充実を目指し、地域の多様なニーズに応えられる支援活動へとつなげていきたいと考えている。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	400,000
イベント・交流会参加費等	77,438
合 計	477,438

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額(円)
直 接 経 費	アルバイト謝金	85,000	85,000
	謝金	109,000	101,000
	人件費	119,000	100,000
	その他(旅費交通費等)	116,100	66,000
	小 計	429,100	352,000
	間接経費(一般管理費)	48,338	48,000
	合 計	477,438	400,000